

秀島由己男展

YUKIO HIDEISHIMA

ダークファンタジー／ミステリアス

水俣が生んだ異才

YUKIO HIDEISHIMA RETROSPECTIVE: DARK FANTASY / MYSTERIOUS THE UNIQUE ARTIST FROM MINAMATA

2026

4.18 [土] → 6.21 [日]

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館3F
Tel. 096-278-7500 www.camk.jp

開館時間 | 10:00-20:00 (入場は19:30まで)

休館日 | 火曜日 (ただし5月5日(火・祝)は開館し、7日(木)は休館)

観覧料 | 一般 1,500(1,300)円、シニア(65才以上)1,200(1,000)円、学生(高校生以上)1,000(800)円、中学生以下無料

*各種障害者手帳をご提示の方と付き添いの方1名無料 (身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳など)

* ()内は前売 / 20名以上の団体 / 電車・バス1日乗車券、JAF 会員証、緑のじゅうたんサポーター証 / 美術館友の会証をご提示の方

*うえるかむパスポートをご提示の方は無料

主催 / 秀島由己男展実行委員会 (熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団、RKK 熊本放送)、熊本日日新聞社 後援 / 熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、J:COM 熊本、エフエム熊本、FM791 特別協力 / 和水町

秀島由己男展

ダークファンタジー／ミステリアス 水俣が生んだ異才

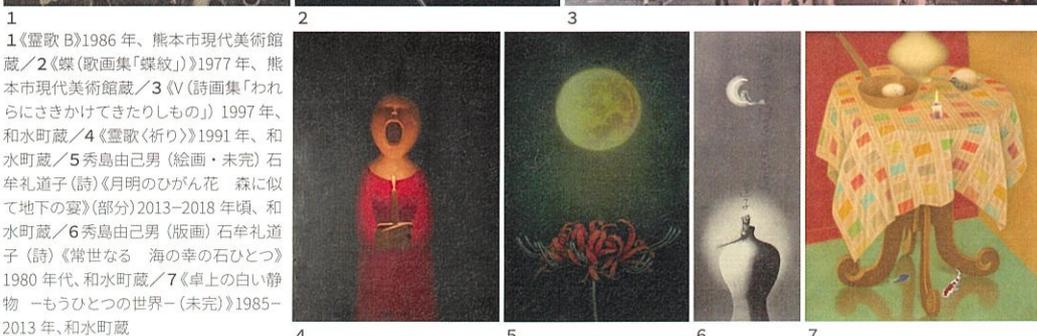
生きるために描いた日々、独学で極めた技術、唯一無二であることへの追究

戦後日本版画的な重要作家のひとり、熊本県水俣市出身の画家・版画家の秀島由己男（1934-2018）の、四半世紀ぶりの大回顧展を開催します。

貧しい家庭に生まれ、若くして両親を亡くし、中学卒業後は就職、ほぼ独学で絵画制作の技術を習得した秀島は、美術評論家の土方定一、洋画家の海老原喜之助、版画家の浜田知明、歌人の安永路子、詩人の高橋睦郎など一流の才能に認められ全国的に活躍しました。また、作家の石牟礼道子の著作の挿絵などを多く手掛け、世界観を深め合う関係でした。西洋古典絵画の高い技術に憧れ、亡くなる直前まで技術向上に熱心で、唯一無二であることを指針としていました。

秀島は、2018年に急逝し、未整理のまま残されたのは、およそ2200点の代表作とその原版、試作など未発表作品、制作のための資料、そして自己研鑽のため収集した美術・工芸コレクションでした。そのすべては、遺族により最期の居住地だった和水町に託され、2020年から5年間、当館のアドバイスと和水町との共同作業のもと調査を進めてきました。本展は、調査の成果をもとに1950年代～2010年代の秀島の画業の全貌を、和水町所蔵作品を中心に代表作・新発見の資料・未発表作品・美術コレクションを含む260点を超える出品点数で振り返ります。

また、本年は、作家デビューである初個展より60年、水俣病公認確認70年という節目でもあります。秀島の世界観を構成する一要素としての出身地・水俣についても考える機会となると幸いです。



1 《靈歌 B》1986年、熊本市現代美術館蔵／2 《蝶（歌画集「蝶紋」）》1977年、熊本市現代美術館蔵／3 《V（詩画集「われらにさきかけてきたりしもの」）》1997年、和水町蔵／4 《靈歌〈祈り〉》1991年、和水町蔵／5 秀島由己男（絵画・未完）石牟礼道子（詩）《月明のひがん花 森に似て地下の宴》（部分）2013-2018年頃、和水町蔵／6 秀島由己男（版画）石牟礼道子（詩）《常世なる 海の幸の石ひとつ》1980年代、和水町蔵／7 《桌上的白い静物 -もうひとつの世界-（未完）》1985-2013年、和水町蔵



秀島由己男
YUKIO HIDESHIMA

1934年、熊本県水俣市出身（本名：秀嶋幸雄）。1950年、水俣市立第一中学校卒業。その後、水俣市立第一中学校の事務補助職員として勤務。母校の美術教師の画塾で水彩画を学びはじめる、この画塾で石牟礼道子と出会う。1957年、銅版画家・彫刻家の浜田知明に出会い師事する。1966年、南天子画廊にて初個展「第1回 秀島由己男個展-ペンに依る黒の歌-」。1975年、第1回「グラフィカ・クリエイティヴ」国際版画トリエンナーレ展（ユベスキュラ、フィンランド）にて優秀賞受賞。1980年代以降、国内外で評価が高まる。1992年、三加和町（現和水町）に移住。1995年、個展「秀島由己男-魂の叫び-」展（大川美術館、群馬）。1998年、石牟礼道子の新聞連載小説「春の城」（熊本日日新聞ほか）の挿絵を手掛ける。1999年、個展「秀島由己男展」（神奈川県立近代美術館「別館」）。2000年、個展「魂の詩-秀島由己男展」（熊本県立美術館）。2000年以降、全国各地で回顧展を開催。2014年、個展「秀島由己男 創造と探究の生者展」（熊本市現代美術館ギャラリーIII）で秀島の美術・工芸コレクションが初公開された。2018年、84歳で永眠。2025年度熊本県近代文化功労者。和水町町民栄誉賞。

会場構成

秀島由己男の創作活動は、様々な才能との出会い、様々な模索と挑戦を通じて発展してきました。8つの章から作品世界を紐解きます。

- 第0章 作家の横顔
- 第1章 はじまり - 水俣（1950 - 1960前半）
- 第2章 靈歌、彼岸花、蝶紋（1960後半 - 1970年代）
- 第3章 静物考（1980年代）
- 第4章 われらにさきかけてきたりしもの、風の舟（1990年代）
春の城
- 第5章 前向きな未完と加筆（2000 - 2010年代）
- 第6章 創作の舞台裏
- 第7章 師や友との交流
海老原喜之助、浜田知明、石牟礼道子、福島次郎、画家達
- 第8章 自己研鑽のための美術・工芸コレクション
西洋古典版画、浮世絵、現代作家

*展覧会音声ガイド（有料、RKKのアプリ）
ナビゲーター：福島絵美、英語版ナビゲーター：亀山真依

公式アンバサダー 亀山真依（RKKアナウンサー）



秀島由己男さんの作品は、その世界観の奥に、秀島さんの人生にまつわるさまざまな物語が息づいているように感じます。私自身、同じ熊本にゆかりを持つ者として、秀島さんという人物への理解を深めながら、私なりの視点でその魅力をお伝えしていければと思います。

関連イベント

[記念講演会]

4/18(土) 講師：西山真実
（和水町教育委員会・学芸員）／14:00～14:45

5/9(土) 講師：前川清一
（熊本県文化財保護審議会委員）／14:00～15:30
いずれも 場所：ホームギャラリー／参加費：無料

[プレミアムコンサート]

「秀島由己男展開催記念 秀島由己男のせかい」

5/23(土) 秀島由己男の画業と文学と音楽のコラボレーションによる「祈り」をテーマに構成する特別なコンサートです。

I部「秀島由己男って!?」トークショー
まさやん（タレント）× 雷澤治子（熊本市現代美術館学芸員）
司会／亀山真依（RKKアナウンサー）

II部「芸術が交錯する～魂の共鳴～
山下牧子リサイタル」
山下牧子（メゾ・ソプラノ）、福島絵美（朗読）、黒島原康子（Vn）、正源司有加（P）

時間：開場13:15 / 開演14:00 / 終演16:00(予定)
場所：玉名市民会館大ホール
自由席：3,000円（秀島由己男展招待券付き）

[福島絵美（アナウンサー）による読みがたり]

4/29(水祝) 秀島由己男が一流の作家達と共作した詩画集などの朗読。

- 詩画集 彼岸花（詩：石牟礼道子、1974年）
- 詩画集 われらにさきかけてきたりしもの（詩：高橋睦郎、1997年）

時間：14:00～15:00 / 場所：ホームギャラリー / 参加費：無料

[スライドトーク（全4回）]

展覧会場の章立ての順で、各章の作品の見どころを担当学芸員が各回30分解説します。

1・2章 3・4章 5・6章 7・8章

5/24(日) 5/30(日) 6/7(日) 6/13(土)

時間：すべて14:00～14:30 / 場所：ホームギャラリー / 参加費：無料

[水俣病公認確認70年記念連続上映会]

無料上映会「月曜ロードショー」での特集
（毎週月曜日14:00～ / 17:00～）

プログラム：「水俣-患者さんとその世界」（1971）120分（シグロ） / 「水俣曼荼羅」（2020）372分（疾走プロダクション）ほか

* その他のイベントやワークショップの詳細は当館ホームページをご覧ください。